



Young Ophthalmologists Committee Hot Topics !



Instagram

# 第79回日本臨床眼科学会シンポジウムと第1回 Japan YOC-Leadership Development Program

日本眼科学会戦略企画会議第二委員会  
Young Ophthalmologists Committee

## Young Ophthalmologists Committee(YOC) 活動報告：学会シンポジウムと Japan YOC- Leadership Development Program(LDP)

皆様、こんにちは。第6回となるYOCコラムです。おかげさまで、YOCの取り組みが徐々に認知され、あたたかい励ましのお言葉をいただく機会が増えてまいりました。メンバー一同、深く感謝申し上げます。

YOCでは、毎月Webミーティングを行い、「日本の研究促進と国際化の加速」を活動理念に、若手医師を後押しする企画の立案に取り組んでいます。すでに実施しているYOCシンポジウムの他に、今回は新たに、Japan YOC-LDPとYO Online Lectureを企画しました。なお、この3つの企画はいずれも講演を含みますが、学会の場で広く発信する「YOCシンポジウム」、若手が英語での対話を通じてリサーチマインドを深める「Japan YOC-LDP」、オンラインで国際交流に気軽に参加できる「YO Online Lecture」と、役割を分けて設計しています。本稿では、第79回日本臨床眼科学会(臨眼)のYOCシンポジウムと、記念すべき第1回 Japan YOC-LDPの開催概要を、その特徴とねらいとともにご報告します。

## 第3回YOCシンポジウム(第79回臨眼/2025年10月)

本シンポジウムは、学会という開かれた場で各分野の第一線で活躍する研究者をお招きし、講演とディスカッションを通じて研究のリアルと感動を若い世代に届けることを目的としています。対象は年齢を問わず広く学会参加者の皆さまで、若手医師国内交流プログラム等のYOC活動報告に加え、YOCメンバーとのパネルディスカッションや会場質疑を交えながら、研究の大切さと楽しさが自然に伝わる学会公式セッションとして実施しています。

本シンポジウム冒頭では、「第1回若手医師国内交流プログラム(2024年度)」参加者による見学報告が行

われました(写真1)。駒井清太郎先生、鈴木真聖先生、瀧澤廣輝先生、田中一史先生、利根川直也先生の5名が代表して登壇され、各専門分野における国内トップ施設での短期見学の学びを共有していただきました。限られた期間ながらも、各施設の研究体制や臨床環境を肌で感じることで、自身の研究やキャリア設計を再考する貴重な機会になったとの声が多数寄せられました。なお、本プログラムの詳細は次回(第7回)コラムで詳しく紹介する予定です。どうぞご期待ください。

特別講演では、近畿大学皮膚科学教室 主任教授の大塚篤司先生をお招きし、ご講演いただきました。大塚先生は医学領域におけるChatGPTの活用に造詣が深く、皮膚科領域における若手研究者育成の促進にも中心的な役割を担われています。「愛のままにわがままに研究は君を傷つけまくる」というユーモアあふれるタイトルのもと、学生時代から研究に没頭してこられた軌跡や、数々の逆境をいかに乗り越えてこられたかをご紹介いただきました。「患者さんのためになる研究をしたい」という純粋な情熱が大塚先生の原動力であることが強く伝わりました。また、皮膚科領域での若手医師向け研究合宿の取り組みもご紹介いただき、志を共有する同世代とのつながりの重要性を改めて認識しました。YOCとしても、眼科領域における同様の施策を検討していきたいと感じる、示唆に富んだご講演でした(写真2)。

## 第1回 Japan YOC-LDP(2025年10月)

続いて、YOCの新たな柱としてJapan YOC-LDPを初開催しました。本プログラムは、日本の眼科界を担う40歳以下の若手医師を対象に、リーダーシップの醸成と国際的視野の獲得を目的としています。学会では声をかけにくい海外の著名な演者を招聘し、少数制のレクチャーに英語でのQ & Aや対面ディスカッションを組み合わせ、リサーチマインドを深める実践の場を設けました。また、留学や大学院進学を検討す



写真 1 第79回日本臨床眼科学会(臨眼)のYoung Ophthalmologists Committee(YOC)シンポジウムにおける「第1回若手医師国内交流プログラム」報告の様子。



写真 2 大塚篤司先生による、第79回臨眼 YOC シンポジウムでの特別講演。



写真 3 Yoshihiro Yonekawa 先生による「第1回Japan YOC—Leadership Development Program(LDP)」の様子。

る若手同士の横のつながりに加え、YOCメンバーやメンターとの交流機会を用意し、研究・キャリア相談を気軽に行える環境を整えています。言語や国境の壁を

越えた対話を重視し、小規模だからこそ可能なインタラクティブな議論を本プログラムの核としています。

第1回のJapan YOC-LDPでは、米国Wills Eye Hos-



写真 4 Japan YOC-LDP 後の懇親会。

pitalで小児網膜疾患の外科治療を専門とし、*RETINA*誌 Assistant Editor をはじめ、複数のジャーナルの編集委員として活躍されている Yoshihiro Yonekawa 先生をお招きしました(写真3)。Yonekawa 先生は、卓越した手術技術と研究実績を両立させ、国際学会でも存在感を発揮されており、まさに次世代のロールモデルといえる存在です。講演では、ご自身の体験をもとに研究モチベーションの高め方や、仲間と情熱を共有することの大切さを語っていただきました。中でも特に印象的だったのは、「論文は自分自身やチームを守る手段でもある」というメッセージでした。珍しい症例や新規手技を経験した際には、他施設の報告を積極的に参照しつつ論文化することの重要性を強調されました。これは単なる報告にとどまらず、医学的妥当性と再現性を備えた知識として記録・共有することであり、Evidence-Based Medicineの実践そのものと深く感じました。

プログラム終了後は、Yonekawa 先生にもご参加いただき、参加者との懇親会を開催しました。研究や国際交流に前向きな若手が熱意を高め合う非常に有意義な時間となりました(写真4)。

#### ■ 今後の企画予定

2026年の新企画「YO Online Lecture」は、海外

YOリーダーの英語ショートレクチャーと日本人特別講演の二部構成です。オンラインの強みをいかし、場所や時間の制約を受けずに年齢を問わず誰でも参加でき、海外YOリーダーや留学経験者とつながる国際交流の場として位置づけています。第1部では各国のYOがキャリア形成や研究継続の工夫を共有し、国際学会参加や留学への一歩を後押しします。第2部では、海外で活躍する日本人医師の講演を通じて、世界で通用する研究マインドと具体的な進め方に触れる機会とします。

記念すべき第1回は、2026年2月3日(火)18時開始を予定しています。登壇者は、Singapore National Eye Centreで研究活動を行い、シンガポールYO代表として他国との交流を精力的に促進しているDr. Claire Peterson、そして特別講演には、iPS細胞を用いた網膜再生医療の先駆者で、世界初のiPS細胞由来網膜色素上皮移植を実施された高橋政代先生をお招きする予定です。

また、2026年4月の第130回日本眼科学会総会(日眼総会)(福岡)でも、第4回YOCシンポジウムを開催する機会をいただいております。特別講演には、大阪大学名誉教授の仲野徹先生をお招きする予定です。仲野先生は幹細胞研究を専門とする生命科学者で、著書や各所の講演で研究について面白く、引き込まれる



写真 5 第79回臨眼のYOCブース。

語り口で紹介されています。YOCシンポジウムでは「このシンポジウムが効きまっせ！ —夢見る若手の研究と国際戦略」というタイトルでご講演いただく予定です。

第79回臨眼の会期中は、会場内にYOCブースを設置し、研究・留学に関心のある若手医師を中心に、YOCメンバーと交流の機会を設けました(写真5)。2026年4月の第130回日眼総会でも会場内にYOCブースを設ける予定ですので、研究・留学にご興味のある若手の先生方はぜひお立ち寄りください。

今後の企画の詳細につきましては、ホームページ・Instagram・LINEにて順次ご案内いたします。下記の

QRコードよりご確認くださいませと幸いです。

最後に、大塚篤司先生、Yoshihiro Yonekawa先生には、若手眼科医のモチベーションを大いに高めていただき、心より御礼申し上げます。お二人のご講演を拝聴し、改めて情熱が成功の鍵であると実感いたしました。YOCメンバー一同、若手眼科医のモチベーションを力強く後押しし、情熱をさらに高める企画を今後も立案してまいります。引き続きご支援・ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

(文責：加藤喜大)

Young Ophthalmologists Committee (YOC)

Homepage Instagram LINE